

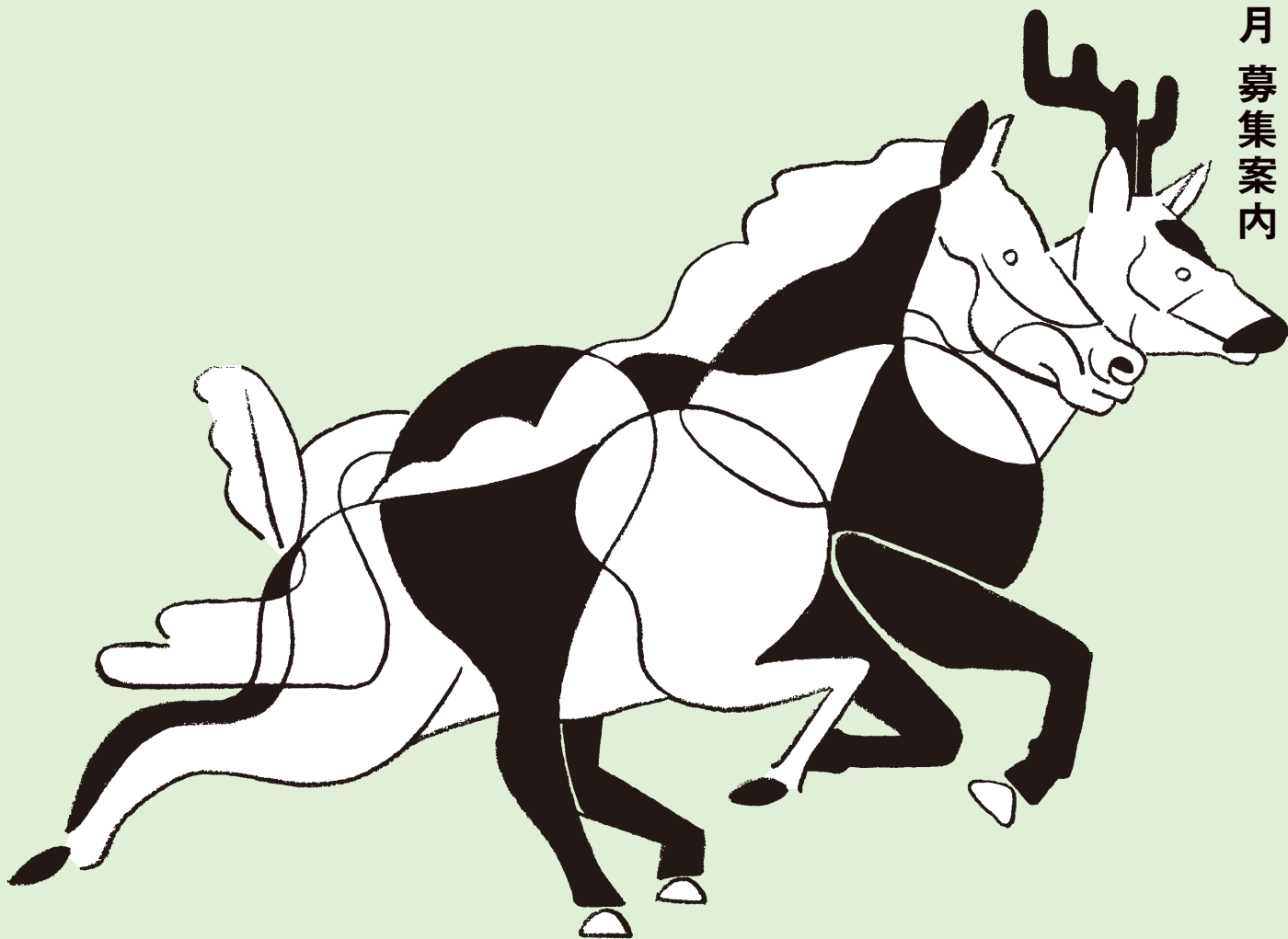
岩淵潤子 「アートから考える民主主義」

関 和明 「104 年目のバウハウス：bauhaus104」

村田 真 「横浜のパブリックアート研究」

倉石信乃 「詩と写真」 を考える

バンカートスクール
2023年4月ー6月 募集案内



BankART school

バンカートスクールは、横浜・馬車道に残る歴史的建造物を芸術文化に活用したBankART1929のプログラムのひとつとして、2004年4月に開校しました。と書いてから早19年。場所は「馬車道に残る歴史的建造物」から日本郵船の倉庫、関内の泰生ビルへと引越し、さらにBankART Station（新高島駅）、BankART KAIKO（馬車道駅）へと移転しましたが、中身は大して代わり映えしません。バンカートスクールの守備範囲は美術・演劇・写真・建築・音楽・ダンスなどアート全般におよび、講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たちばかり。子供向けのワークショップから専門性の高い講座までレベルはさまざまですが、いずれも少人数制で、講師と受講者同士の親密な交流を重視する現代の寺子屋をめざしています。この19年の間に327講座、述べ1,130人の講師の方々をお招きしました。受講生は4歳のおじょうちゃんから85歳のおじいちゃんまで、述べ5,270人をこえます。ぶっちゃけ話、これらの講座をうけたところで即戦力にはならないし、なにか資格が得られるわけでもありません。受けるだけではなんの役にも立たないのです。むしろここから自分たちでなにを立ち上げていくのか、それが問われているのです。

(バンカートスクール校長 村田 真)

月 19:30 - 21:00

岩淵潤子「アートから考える民主主義」

①4/17 ②4/24 ③5/1 ④5/8 ⑤5/15 ⑥5/22 ⑦5/29 ⑧6/5



大学生に聞くと、小学校から高校までの美術の授業の中で、作品を見ながらみんなでディスカッションした経験がないと言います。どうしたらみんなが美術について、緊張することなくディスカッションすることができるようになるでしょうか？ 昨年の秋から実験的に配信してきた美術鑑賞とディスカッションのあり方についてのビデオ (<https://www.youtube.com/watch?v=TUKzyKURwdk>) を基に、どうやってアートをきっかけにディスカッション、ディベートをデザインしていくかその可能性とあり方を考えます。

いわぶち・じゅんこ | アグロスパシア株式会社取締役/編集長、美術館運営・管理研究者。NYのホイットニー美術館でのヘレナ・ルービンスタイン・フェローの経験を経て『NY午前0時 美術館は眠らない』(朝日新聞社)を出版。フィレンツェ、ロンドンで研究を続けながら、執筆活動を開始。専門領域は美術館運営・管理研究 (Arts Administration/アーツアドミニストレーション) と文化施設の情報デザイン、富裕層マーケティング、多様性とソーシャル・インクルージョンなど。

火 19:30 - 21:00

関和明「104年目のバウハウス:bauhaus104」

①4/18 ②4/25 ③5/9 ④5/16 ⑤5/23 ⑥5/30 ⑦6/6 ⑧6/13



2019年の創設100年を記念して、その前後に世界中で展示会、出版などのイベントがあり、日本でも『きたれ、バウハウス:kommt ans bauhaus』展が開催され各地を巡回した。1919年～1933年という14年間を疾走した、この「壮大な試行」、そして「未完のプロジェクト」に対して、100年後の私たちは、いま、どのような眼差しを向け、新たな意味を見出すことができるのだろうか？ 参加者の多様な問題関心が交錯しあう「ゼミナール」となるように、後半の数回は、参加者の発表とディスカッションの時間としたい。

せき・かずあき | 1948 (昭和23) 年、京都市生まれ。建築史家・建築家、関東学院大学名誉教授。早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻建築史研究専修博士課程単位取得満期退学。1976年～2019年関東学院大学工学部建築学科および建築・環境学部建築・環境学科教員。バウハウスに関連した論考として「ハルネス・マイヤーとバウハウス—マルクス主義の建築: Hannes Meyer and Bauhaus-Marxist Architecture」。

水 19:30 - 21:00

村田真「横浜のパブリックアート研究」

①4/19 ②4/26 ③5/10 ④5/17 ⑤5/24 ⑥5/31 ⑦6/7 ⑧6/14



2021年の「パブリックアート再考」の続編として、横浜のパブリックアートに焦点を絞って学びます。幕末の開港以来、西洋文化の窓口となった横浜で、パブリックアートはどのように発展し、行政はどのように関わってきたのか。その歴史をたどり、地域ごとに作品設置の関係者を招いてヒアリングを行い、現状を把握し、問題点を探ります。

また、会期中 (ゴールデンウィークなど) の休日にパブリックアート巡りも予定しています。最終的に本にまとめることを視野に入れ、研究会のような講座にしたいと考えます。

●対象地域: 横浜駅周辺 (彫刻通りなど)、関内・関外 (馬車道、大通り公園など)、みなとみらい地区、上大岡 (ゆめおおおか)、横浜ビジネスパーク、ポートサイド地区など

むらた・まこと | 美術ジャーナリスト、画家、BankART スクール校長。1997年よりアートサイト「artscape」にレビューを執筆。主な著書・共著に『アートのみかた』『いかに戦争は描かれたか』『日本の20世紀芸術』など。

木 19:30 - 21:00

倉石信乃「詩と写真」を考える

①4/20 ②4/27 ③5/11 ④5/18 ⑤5/25 ⑥6/8 ⑦6/15 ⑧6/22



写真は発明以来、記録の有力な媒体とされる一方、新たな想像力を喚起するためにも利用されてきました。その時「言葉」には、つねに重要な役割が託されました。言葉は写真画面の外に説明として付加されるだけでなく、画面内に侵入し写真の造形要素や意味と結合します。こうして文学にとりて写真・映像は、新たなヴィジョンを誘発し形成するものであり続けています。今回の講座では、シュルレアリスムの詩人・写真家、萩原朔太郎、吉増剛造、サミュエル・ベケット、ロバート・フランクなどの諸作から、写真および映像を仲立ちとする「もうひとつの文学」の可能性を探ります。

くらいし・しの | 明治大学理工学研究科総合芸術系教授 (美術史・写真史)。1963年生まれ。1989～2007年横浜美術館学芸員として、ロバート・フランク展、中平卓馬展などを担当。主な著書に詩集『使い』(思潮社)、『写真真論』(オシリス)、『スナップショット 写真の輝き』(大修館書店)、『東日本大震災10年 あかし testaments』(共著、インスクリプト) など。『沖縄写真家シリーズ [琉球烈像]』全9巻 (未だ社) を仲里効と監修。

BankART schoolの概要

時間=19:30～21:00

会場= BankART Station

料金=1講座 (全8回) 15,000円 入学金3,000円 (初めての方のみ)

アクセス

BankART Station 横浜市西区みなとみらい5-1

みなとみらい線「新高島駅」地下1階

お問い合わせ BankART スクール事務局

school@bankart1929.com TEL 045-663-2812

お申し込み方法

右記のQRコードか、下記ウェブサイトからお申し込みください。折り返し、受講料お支払い方法をメールにてお知らせいたします。

<http://www.bankart1929.com/school/>

こちらのフォームからお申し込みができない場合は、school@bankart1929.com宛にメールにてお申し込みください。

※一旦納入された受講料は返金できません。

※講座によっては別途材料費・資料代がかかる場合があります。

※申し込み受付は定員になり次第、終了させていただきます。



申込フォーム